

氏 名 林田 馨
授与した学位 博士
専門分野の名称 博士(保健学)
学位授与番号 甲第 5003 号
学位授与の日付 平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目 Promoting Factors of physical and mental development in early
infancy:A comparison of preterm delivery/low birth weight infants
and term infants (早期乳児期の心身の発達を促進する要因の検討：
正期産児と低出生体重児/早期産児の比較)
論文審査委員 猪下 光 教授、小田 慈 教授、芳我 ちより 准教授

学位論文内容の要旨

広島県の乳児 4 カ月健診を受けた母親のうち同意の得られた 1,402 名に自己記入式質問紙を配付，子ども総研式育児支援質問紙により母親の育児不安を，KIDS type A により乳児の身体的・精神的発達を評価した．421 組の回答のうち多胎児などを除いた 318 組を対象とした．

低出生体重・早期産 (n=31)では，正常正期産 (n=287)の乳児に比較し，母親の育児困難感や *Difficult baby* のスコアは有意に高値，発達の操作のスコアは有意に低値であった．正常正期産群のうち，初産婦，40 代の母親，母乳のみの授乳の乳児，母親が就業していた乳児では発達スコアが有意に高い項目が見られた．帝王切開で生まれた乳児，4 歳以下のきょうだいがある乳児では，それ以外の群に比較し，発達スコアが有意に低い項目が見られた．母親の育児困難感は，多くの領域の乳児の発達に関連していた．

このような各種の因子を評価し予防的に対応することで乳児の適切な発達を促進できる可能性がある．

Environmental Health and Preventive Medicine (in print)

キーワード：育児不安、早期乳児期、乳児の発達、低出生体重児、早期産

論文審査の結果の要旨

本研究は生後4か月の乳児を持つ318組の母親を対象に、母親のストレス、育児不安、KIDStypeA等からなる自記式質問紙を用いて調査して多面的に評価し、乳児の発達に影響する要因を検討したものである。

乳児の心身の発達を促進する要因として、母親の育児困難感、きょうだいの年齢、栄養法が影響していることが明らかになった。

妊婦を含む母子の背景に応じた予防的な育児支援として、特に育児困難感や育児不安の高い母親を対象とした連携したサポート体制を築くためにも、本研究は意義あるものであり、今後さらなる研究へと発展させていくことを期待する。